

3 主な業務内容 Contents of Main Activities

1 展示 Exhibition

●常設展示(1F)

板橋区の歴史について紹介します。敷地内には、江戸後期に建てられた古民家(旧田中家住宅)や、板橋宿で栄えた貸座敷「新藤楼」の玄関が移築されています。



常設展示のようす

●企画展示(2F)

年に複数回おこないます(特別展、収蔵品展など)。

●コレクション展示(1F)

常設展示室の一角で、当館収蔵のコレクション資料を紹介します。



古民家(旧田中家住宅)

●ミニ企画展示(1F)

常設展示室の一角で、季節やイベントに合わせた展示をおこないます。2F企画展示と連携する場合もあります。



板橋宿貸座敷「新藤楼」の玄関

2 講演会・シンポジウム

Lectures/Symposiums

企画展示の開催中に、展示テーマに沿った内容の講演会やシンポジウムなどをおこないます。

3 博物館講座・体験学習・年中行事

Lessons on this museum / Hands-on learning / Annual events

古文書講座や勾玉づくり体験などを実施します。古民家では年中行事の飾りが楽しめます(桃の節句・端午の節句・タナバタ祭り・お月見・マユダマ飾りなど)。



桃の節句(ヒナまつり)

4 武者行列事業

Samurai's procession activity

区内のまつり(農業まつり、梅まつりなど)で武者行列をおこないます。地域の子どもたちが鎧や着姿で練り歩きます。*協力:いたばし武者行列保存会
毎年5月5日(こどもの日)には、鎧の着付け体験を当館中庭でおこないます。古民家を背景に記念撮影ができます。



武者行列(農業まつり)

5 レファレンスサービス Reference service

板橋区の歴史や文化についての問い合わせを随時受け付けます。また、夏休み期間中は自由研究相談対応もおこないます。

*各事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止などにより内容変更・延期・中止となる可能性があります。
* Each activity may be changed/postponed/canceled due to prevention of spread of COVID-19.

4 利用案内 Usage Guidance

開館時間 9時30分~17時00分(入館は16時30分まで)
9:30 a.m. - 5:00 p.m. (permitted to enter until 4:30 p.m.)

休館日 月曜日(ただし、月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館)
年末年始 *展示の入替えや設備点検等で休館する場合があります
Closed on Monday (in the case of any national holiday on Monday, opened on Monday and closed on the following day) and New Year's Holidays.
*It may be closed due to change of display, any equipment inspection, etc.

入館料 無料 Free of charge

交通案内

■徒歩

- ①都営三田線「西高島平駅」下車 徒歩13分
- ②東武東上線「成増駅」下車・東京メトロ「地下鉄成増駅」下車 徒歩23分

■タクシー利用

都営三田線「高島平駅」西口または東武東上線「成増駅」北口から 約5分

■バス利用

- ①都営三田線「高島平駅」下車 西口2番バス乗場(区立美術館経由成増駅北口行)にて区立美術館下車 徒歩2分
- ②東武東上線「成増駅」・東京メトロ「地下鉄成増駅」下車 北口2番バス乗場(区立美術館経由高島平操車場行)にて区立美術館下車 徒歩2分
*美術館を経由しないバス(系統)もあるので乗車前に確認してください



板橋区立郷土資料館
〒175-0092 東京都板橋区赤塚五丁目35番25号
TEL.03-5998-0081 FAX.03-5998-0083
E-MAIL kyoudo@city.itabashi.tokyo.jp
ホームページ https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kyodoshiryokan/

ITABASHI HISTORICAL MUSEUM



郷土資料館

板橋区立

金箔押仏二枚胸具足 江戸時代前期



木彫刻「龍」 制作年:平成18年(2006) 佐藤昌月 作

令和5年度 展示案内

Information about Exhibition In April, 2023 - March, 2024

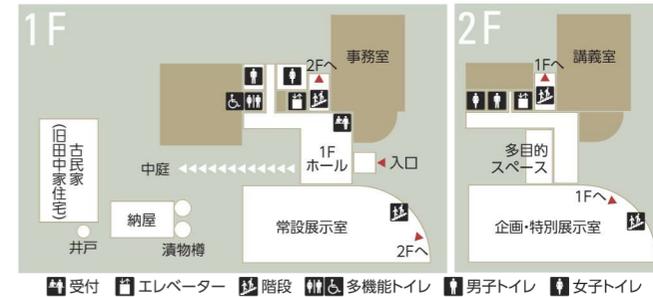
1 館紹介 Introduction of Museum

板橋区立郷土資料館は、昭和47年(1972)開館の文化施設です。赤塚城址および赤塚溜池公園に隣接しています。当館では、板橋区の歴史や文化に関わる資料を保存調査しています。また、展示や教育普及事業を通し、地域文化振興を図っています。



郷土資料館外観

Itabashi Historical Museum, next to Akatsuka Castle Ruins (Akatsuka-Jyoshi) and Akatsuka Pond Park (Akatsuka-Tameike-Koen), was established in 1972. This museum preserves/investigates some materials regarding history/culture of Itabashi City, and tries to promote the regional culture through display and educational promotion activities.



2 主な収蔵資料 Main Collection Materials

板橋区に関するコト・モノの資料を収蔵しています。

●中山道板橋宿



木曾街道板橋之驛

●幕末の砲術家・高島秋帆と西洋流砲術



高島四郎太夫 砲術種古美術見分之図

●戦時中の生活や学童疎開



竹かぶとと拍子木

●煎茶道



煎茶道具(脇本陣豊田家什器類)

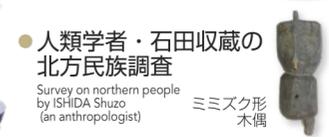
●江戸・明治期などの古文書



●民具(農機具など)

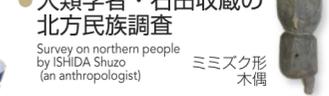


●甲冑刀剣類



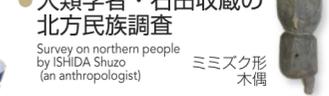
本小札 黒系威丸銅具足(伝板倉家甲冑)

●伝統工芸



木彫刻「聖観音菩薩像」制作年:平成初期 佐藤昌月 作

●人類学者・石田収蔵の北方民族調査



ミミズク形木筒

収 蔵 品 展

2023年4月22日(土)～7月9日(日)
April 22 (Sat.) – July 9 (Sun.)

煎茶にしませんちゃ?

中山道板橋宿平尾の脇本陣豊田家は、代々平尾の名主兼板橋宿の問屋を務めた家です。この豊田家より伝わった資料群は、平成9年(1997)3月に「脇本陣豊田家資料一括」として区の有形登録文化財として登録されています。

豊田家の資料の中でも、とりわけ異彩を放つ資料として煎茶道具が挙げられます。幕末から明治時代にかけて名主を務めた豊田喜平治は、煎茶道に造詣を持ち、鐵蕉の号を使い「鐵蕉茶寮」と呼ばれる茶室を設け煎茶趣味に耽っていました。

今回の展示では、豊田家から伝わった煎茶道具を中心に当館が所蔵する茶道具・茶書を通して、板橋と煎茶の関わりについて紹介します。



豊田家煎茶道具一式



高島秋帆書「鐵蕉茶寮」



白泥湯沸



椿椿山日記

板橋区史跡公園(仮称)整備準備展覧会シリーズ 工都展

2023年7月21日(金)～9月10日(日)
July 21 (Fri.) – September 10 (Sun.)

印刷産業 「残す」と「伝える」

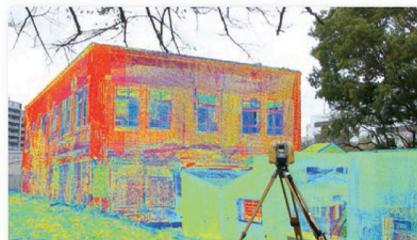
工都展は、史跡整備事業と調査研究成果を公開することを目的に中央図書館を会場として実施してきました。本展では、令和4年度に実施した「印刷産業」の内容を中心に、展示資料を加えて紹介します。昭和13年(1938)に区内へ大規模な工場を建築した凸版印刷株式会社は、志村の工業化において大きな役割を果たしました。同社が印刷業界に残した足跡を通じて、印刷産業の過去・現在・未来と板橋の工業化の歴史を紐解きます。さらに工業化の原点となった史跡公園を映像や模型を用いて復元展示することにより、史跡公園への興味と関心を深めます。



最新志村案内図(部分)



志村第三土地区画整理組合地区整理図



「史跡指定地の3D実測調査」
画像提供：株式会社トフコン

企画展 震災後100年

2023年9月30日(土)～12月10日(日)
September 30 (Sat.) – December 10 (Sun.)

いたばしの現代化 —関東大震災をきっかけに板橋はどう変わったのか—

大正12年(1923)に関東大震災が発生してから、令和5年(2023)で100年になります。関東大震災の発生とその「復興」をきっかけに、いたばしの街がどのように変わってきたのか。街並みや暮らし、産業の変化などから、今日につながる都市化の様子を取り上げます。

震災後の復興計画において帝都の範囲拡大が謳われ、建物や施設の郊外への移転が進みました。それに伴い、板橋区域内には住宅が増え、住環境の整備や人口増へとつながりました。産業分野では、志村地域が工業地帯に指定され、田畑が広がっていた風景に工場の煙突が建ち始めます。昭和初期、志村には多数の工場が進出し、工都板橋を牽引するとともに、地域の戦後復興を支えることにもなりました。

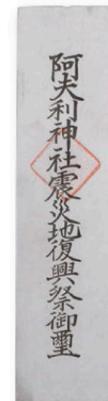
震災後のあゆみをたどることで、現在の街並みを形作ってきたいたばしの歴史とその特性をご紹介します。



「区画整理事業写真帖」



大震災記念手縫ひ用型紙



大山阿夫利神社
震災地復興祈禱札



板橋区立中学校
産業教育共同実習所のスクールバス
(板橋区公文書館所蔵)

特別展

2024年1月20日(土)～3月17日(日)
January 20 (Sat.) – March 17 (Sun.)

いたばしの富士山信仰 —富士講用具と旅した人びと—

富士山は古来より信仰の対象とされました。江戸時代初期に長谷川角行が富士山信仰を教義化し、その教えは弟子達に引き継がれていきました。特に、富士講中興の祖である食行身禄の分かりやすい教義は庶民の共感を呼び、江戸を中心に多くの富士講が組織され「江戸八百八講」といわれるほどになりました。

板橋区には、永田講、山万講、丸吉講などの富士講があり、富士山への参詣を毎年盛んに行っていました。特に、永田講は食行身禄の弟子である永田長四郎が、江戸時代に板橋宿を中心に組織したもので、名門として知られていました。その後、永田講は昭和41年(1966)に解散となり、富士講用具類(23種70点)は当館に寄贈され、区指定有形民俗文化財となっています。

現在、板橋区での富士講の活動はなくなってしまいましたが、その歴史を語る資料は多数残されています。富士講用具を中心に展示し、当時の板橋の人びとが富士山を信仰した姿をご紹介します。



富士山体内巡之図 歌川貞秀画 安政5年(1858)



身禄曼茶羅 江戸時代カ



永田講紙マネキ